

## 好調な経済の陰に政治不安 (マレーシア)

### ▼好調な経済

今年 2 月末、子供の職業体験型テーマパーク「キッザニア KL」がオープンした。入場料は人件費の安さが反映され、子供一人 55RM (約 1,430 円) と日本の約 3 分の 1 で、連日子供連れで賑わっている。また、日系企業の進出も盛んで、昨年にはヤマト運輸が、今年 4 月には無印良品が KL 市内にオープンした。

2011 年の GDP 成長率は 5.1% となり、欧州不安による輸出の減少を内需が支え、前年に予想された水準の好調な成長率である。2012 年は成長が鈍化するものの、4.14% の成長が見込まれる。



首都 KL のランドマーク・ペトロナスツインタワー

### ▼まもなく選挙

好調な経済状況の一方、政治的には懸念があるようだ。昨年 7 月の大規模デモ集会は、政治制度に対する民衆の不満を世界のメディアに見せつける形となった。これを受け、政府側から改革案が発表されるも、今年 4 月末にも相当規模のデモ集会が決起され、中心部への主要道路が閉鎖された。

### ▼マレー系と華人系の調整が選挙に影響

マレーシアはマレー、華人、インドの 3 大民族で構成されるが、これら多民族間の利害を巧みに調整して政治的に安定してきた。しかし近年、マレー系民族を優遇するブミプトラ政策に対して、華人系側の不満が高まっている。華人系の最大野党の書記長は、「変化へ政権交代が必要」と日経新聞に語っているが、仮に政権交代となれば、長年政治的に安定してきたマレーシアにも政局不安が予想される。注目

すべきは、次の選挙である。2013 年 3 月に任期満了を迎える下院について、満了前に解散が予想され、選挙間近とされている。

### ▼ガス市場が開放

国内で発電に使用するガスの供給不足が深刻化しており、輸入ガスを使用できるよう対応を急いでいる。これまでは、沖合で掘り出したガスを発電所などとパイプラインで直接繋いで輸送していたため、輸入ガスを加工する施設は必要なかった。しかし、近年のガス不足に対応して、輸入ガスの再ガス化施設が新設される。輸入元は中東、ロシア、オーストラリアである。再ガス化したガスは、第三者機関も販売でき、従来は国営企業のペトロナスグループが唯一国内のガス販売を担ってきたが、ガス市場が開放されることとなる。

### ▼最低賃金制度

4 月末、ナジブ首相により、半島部の月額最低賃金を 900RM (約 14,000 円) とする制度が発表された。マレーシアの労働人口の約 3 割が月収 700RM 以下の貧困層であり、同制度は国民の貧困解消がねらいである。メイドなど一部の職種を除くほぼすべての業種に適応され、違反した事業者には最高で 1 万 RM (約 26 万円) の罰金が課される。外国人労働者の扱いや実施時期など、未発表の部分も多い。同制度導入により、製造コストに大きく影響する業種もある為、今後も政府の発表が注目される。



KL の繁華街・ブキッピンタン

(マレーシア日本人商工会議所 事務局長 長瀬栄治)

# 在タイ日系企業とタイ人学生との出会い（タイ）

## ▼「日系企業就職フェア」を開催

当所は、本年3月10～11日、バンコク市内で「日系企業就職フェア」を初めて開催した。これは、①在タイ日系企業の人材確保支援、②タイ人学生に対する日系企業のPR、③日本留学を経て、在タイ日系企業へ就職するというスタイルのタイ人学生への定着等を図るため、在タイ日本大使館主催の下、日本学生支援機構、国際交流基金等とともに「日本留学&日系企業就職フェア」の一環として実施したものの。出展者からの評価が高く、毎年恒例イベント（2012年度は時期未定）にしていくことを検討中。



日系企業への就職を目指す学生が多数来場

## ▼タイでの人材不足と日系優良企業の知名度不足

近年、タイの経済は、日本をはじめとする外国企業の積極的な投資を背景に活況を呈している。タイ投資委員会（BOI）への投資促進申請件数も毎月高い数字が維持されている。とりわけ日系企業の2011年度の投資額は、タイへの投資総額の約6割を占め、当所の会員数も1,375社（2012年4月末現在）と毎月過去最高記録を更新し続けている。

しかし、日本を含む海外から企業進出が進むタイでは、「限られたパイ」をいたるところで取り合っており、当所が実施する景気動向調査でも、経営上の問題点として、近年、常に上位にランクされるのが「過当競争」や「労働力の確保」、「優秀なタイ人マネージャーの確保」である。

他方、民間企業で調査されている「タイ人学生の人気就職ランキング」に登場する日系企業はごくわずか。登場する日系企業は、最終消費財など、直接、人々の目に留まる商品を取り扱う企業やサービスを提供する企業が中心。日本では有名な部品・素材メ

ーカー、あるいは小売・サービス業の有名企業といえども、タイでは知名度が低いのが実情である。

こうした背景を踏まえ、当所では、在タイの日系企業が抱える様々な課題のうち、今回は特に「人材の確保」「タイ人学生への日系企業のPR」に焦点をあてた「日系企業就職フェア」を初めて開催した。

## ▼600名以上の内定予定者！その場で内定も！

本就職フェアの主要テーマは、日本語を学ぶタイ人学生、日本留学経験者との出会い。英語を社内公用語とする企業もあるが、日本語を話せるタイ人スタッフのニーズは高い。また、タイ人の人生観や仕事観等は、日本人と根本的に違うことが多く、日本式のスタイルを求めても理解が難しいが、日本へ留学し、日本の風土や文化、日本人的な考え方についてある程度認識や理解があれば、日系企業への適応も早く、トラブルも起こりにくいという期待もある。

出展企業を募集した2011年12月～12年1月は、洪水被害の影響がまだまだ相当大きく、まさに復旧作業が急ピッチで進むタイミングであったため、被災企業の多くからは、「優秀な人材は欲しいが、人事担当者は被災従業員の支援などで忙殺されており、採用に振り向けるための余裕がない」といった声も聞かれた。実際には、募集開始後すぐに出展申込みが殺到し、優秀な人材を求める企業、学生に向けての企業PRを行いたい企業が多い証となった。

フェア当日の成果は、出展企業を対象としたアンケート結果によると、2日間の開催で、ブースを訪れた学生は6,000名以上にのぼり、会場内での内定者12名、内定予定者609名にのぼり、大きな成果を挙げる事となった（詳細は次ページを参照）。



述べ約6,000人がブースで面談した

## ▼今後の取り組み

タイでの人材採用活動は、日本のような一括採用方式とは異なり、必要なタイミングで必要な人材を募集・採用する通年採用が主流であるが、多くの学生と効果的に面談したいというニーズが強いことが今回改めて明らかになった。また、日本国内や業界



次に訪問する企業ブースを吟味するタイ人学生

内では有名な企業であっても、あるいは、タイでの業績が良い（将来性が高い）優良企業であっても、タイ人学生には全く知られていないことが多く、彼らへのPRが大きな課題となっている。

当所は、日系企業とタイ人学生との具体的な出会いの場として本イベントを定着させ、より多くの日系企業が優秀な現地スタッフを採用し、また彼らとともに、タイでのビジネス展開が成功につながるように支援すると同時に、3000社を超える在タイの日系企業が、名実ともにタイの社会で高いプレゼンスを発揮できるよう、タイ人学生はもとより、タイの社会に対しても積極的にPRしていきたい。

（盤谷日本人商工会議所 事務局長 石井 信行）

## < 「日系企業就職フェア」アンケート調査結果（対象：出展企業52社、回答率88.5%） >

項目	結果
就職フェア会場への来場者数	述べ5,124名
期間中のブース訪問者総数（※）	述べ6,180名 (内訳) 3/10 : 3,079名 (男性 : 964名 女性 : 1,707名 未回答 : 408名) 3/11 : 2,411名 (男性 : 659名 女性 : 1,413名 未回答 : 339名)
タイ人学生との面談の結果	採用確定 : 2社 (12名) 採用見込み : 24社 (609名) 継続打合せ : 33社 (2,648名)
就職フェアに関する満足度	大変良かった : 4社 (9%) よかった : 36社 (82%) よくなかった : 4社 (9%) 大変よくなかった : 0社 (0%)
就職フェアの開催希望回数 (1年あたり)	年1回 : 29社 (64%) 年2回 : 16社 (36%)
次の開催希望時期	「1~3月を希望」が最多。中でも、「3月」の開催を求める意見が最多

(※)2日間のブース来訪者数をまとめて回答した企業があるため、「ブース来訪者総数」との数字に乖離がある。